

西国巡礼慈悲の道

西国第十一番 醍醐山

上醍醐・准胝堂

あわれしるこころ

座主 仲田順和

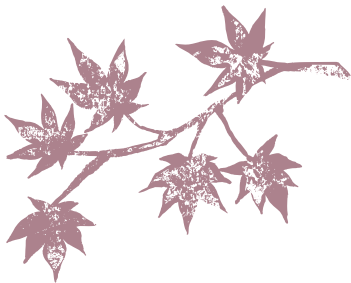
京都—この古い都の長い歴史・時の流れは、多くの夢とときめきをもたらしませす。水の都とも呼ばれるように清らかな澄んだ川が流れ、その源には都を囲む山々があり、折々の語らいと祈りを秘めています。神々が集い、諸仏諸菩薩が雲集し、人々の生活を通して芸術が生まれ、文学が育まれてきた大きな舞台でもあります。

『源氏物語』を創作しました。物語の底を流れる精神は、私たち日本人の心のふるさとです。この物語の心は、今日を生きる私に、未来へ向かう姿勢を示唆し、鼓舞するものであります。だれもが世の乱れを思い、汚れを感じる時、この物語が描く神秘の都「平安京」が清々しさと、安らぎをいかに与え続けてきたかを思わずにいられません。語り継がれてきた物語の

心を光源氏の一生が語りかけます。いつも「あわれしるこころ」を抱いている源氏びとたち、「心やわらか」な気持ちで、自分を素直に変えることの出来る女性たち、「色好み」の真髄でもある、相手の個性を尊ぶこととの上手な光源氏のような男性たち、登場する一人ひとりが「人間はなぜ生きているのだろうか?」「この世をどのように生きればよいか?」などの課題を見事に答え伝えていきます。

華麗・優雅な都びとの生活、華やかな恋愛、その底に流れる清々しい美を求める思い、朝な夕なに死に直面する厳しい巡り来る大きなドラマ、現代にすっかり失われてしまっているこれらの思いはこの物語に秘められています。「あわれしるこころ」とは、その人の身になって思い、みることでしよう。そして、その生き方に美を求め、月や雲、雪や花に自然を思いながら、時の経過はさまざまな道を導き、歴史として大きな広がりとなりましょう。

いま世界の人々は、この地に古の神秘の心を求めて、そして、その舞台にふれたいと京都を訪れます。



西国第十一番

醍醐山

上醍醐・准胝堂
かみだいご じゅんていどう

真言宗醍醐派総本山醍醐寺

御本尊／准胝観世音菩薩 開基／聖宝理源大師

逆縁も

洩らさで救う 願なれば

准胝堂は たのもしきかな



観音風光

「心の返し場所」

私たちは、意識するとな
ないにかかわらず、多くの
人の心をいただき、生きと
し生けるものの「いのち」
をいただいで、生活してい
ます。受けた心、受けた「い
のち」のお返し場所を探し
ながら生活するのが人の道
である、とお観音様は私た
ちに優しくご自身の行動で
示されておられます。

主な年中行事

- 一月六日 初聖宝会
 - 二月三日 節分会星祭
 - 二月十五日～二十一日 五大力尊仁王会前行
 - 二月二十三日 五大力尊仁王会大法要
 - 三月春分の日 春季彼岸会中日土砂加持大法要
 - 五月十八日 准胝観世音菩薩曼荼羅供大法要
 - 七月六日 開山忌
 - 八月五日 醍醐山万灯会
 - 八月六日 虫除け虫封じ祈願法要
 - 九月秋分の日 秋季彼岸会法要
- 毎日午前十時三十分と午後二時に下醍醐 観音堂でお勤め（観音経・般若心経を誦誦）しております。
※ご参拝および納経は下醍醐・観音堂で行っております。

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町22

TEL 075-571-0002

納経時間 午前9時～午後5時

(但し、12月第一日曜日の翌日～2月末日は午前9時～午後4時)

(拝観受付は閉門の30分前終了)

仏教用語一口解説

八苦とは

四苦に、人の心のありようから来る「苦」を加えたもの。①愛するものと離れねばならない苦しみ、②嫌なものに会わねばならない苦しみ、③欲しいものが手に入らない苦しみ、④その他の感情から生まれてくる苦の4つを加えて、八苦とされたのです。現在、非常に苦しむという意味でよく「四苦八苦だ」などといいますが、それは釈迦さまの説法から来た言葉なのです。